



NO.418

R4年5月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

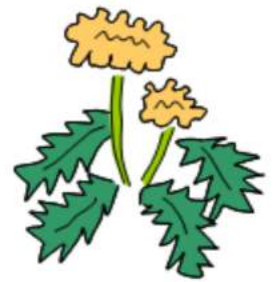
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「平和について」...

施設長 木下昭二

故や火災に因る怪我人及び死者
数など悲しい内容のニュースが
多く報じられているように感じ
ます。「明日は我が身に起こる
事かもしれない」と画面を見
つつも、どこか「平和ボケ」し
ている自分がある事も事実です。
日本は良くも悪くも島国であり、
今まさに起こっている「ロシア
の侵攻」も、どこか「日本では
有り得ない事」と高を括ってい
る人がいるのも事実ではないの
でしょうか。

イナにおいても同じだと思いま
す。

この紙面をご覧いただいたそ
れぞれの方が、日本の5月の花
を愛(め)でながら平和である事の
意味を改めて考え、感じる時間
にして欲しいと思います。そし
て一人ひとりが出る事は僅か
でも、皆が協力して侵攻の抑止
力となり、美しい花を素直に、
普通に美しいと感じられる世界
になる事を願います。

(左の写真はウクライナにゆか
りのあるオリエンタリス系ダブ
ル、他は我が家の庭の花です。)

新年度が始まってひと月ほど
が経ちました。4月から一緒に三
気の里の仲間として働き始めて
もらったスタッフの皆さんの表
情が、日に日に引き締まり、頼
もしい存在として成長していっ
てくれている事を喜ばしく感じ
ると共に、しっかりとケアして
いく事も怠らないようにしたい
と思っているとこです。しか
し、現実的にはコロナ禍の中で、
歓迎会すら出来ない状況が数年
間も続いており、それが全てで
はありませんが、「今一つ距離
を縮める事が出来ていない」よ
うにも感じています。

一方で、ニュースでは毎日、
新型コロナウイルス感染者数や
それに関連する病床使用率や、
ロシアのウクライナ侵攻の悲惨
な状況、車社会が引き起こす事

日本には四季があり、その時々
によって移り行く季節を花々に
よって感じる事が出来ます。自
然の生命の息吹には、人間様の
都合など関係なく、侵攻が起こっ
ていようが、コロナ禍で規制が
かかっているようが、「その時」
が来れば満を持して綺麗な花を
咲かせてくれます。それは、きつ
と今は悲惨な状況にあるウクラ





5月



1班「おかげさまで」

新年度がスタートしましたが、コロナウイルスの影響で皆さんの生活には、まだまだ制限されたものがあります。利用者さんが楽しみにされている帰宅も延期され見通しが持てない状況が続いています。しかし、毎週木曜日開催される、コンビニの移動販売でのおやつ購入は、皆さんがとても楽しみにされていることのナンバーワンだと思います。木曜日の午前中はしっかり作業に取り組み、午後は再度作業を頑張られるか、散歩に出掛けられます。

ある利用者さんは、木曜日になると心なしかソワソワした感じになられ、移動販売の曲が聞こえてくると、ドアから外を確認されます。おやつを購入する際の手指消毒とマスク着用は、慣れた手つきです。日中活動を頑張られることで、おやつを食べられる表情は、より輝いて見えます。取り組む作業があり、それを皆でできることの幸せ、同じ時間を共有できることは、改めてありがたく感じます。おかげさまで1班は皆さん元気に過ごしています。

支援員 原田 直美

2班「川の流れのように」

今年も三気の里には色とりどりの可憐な花が顔を出しました。めぐりくる季節の風を感じ、利用者さんと共に散歩を楽しめる有難さを日々感じています。ご家族の皆さんに、ご心配をお掛けしました3回目のワクチン接種では、数名の方が副反応による発熱や頭痛がみられることがありましたが、大事には至らず皆さん回復され元気に日々の活動に取り組まれています。そんな中、4月中旬、作業棟にて、心の声を読み取ることが出来ました。「知らず、知らず歩いてきた細く長いこの道、振り返れば遥か遠く故郷が見える、でこぼこ道や回りくねった道、地図さえない、それもまた人生、ああ川の流れのように・・・♪」と小さい声で歌っている姿がありました。1月に腰を痛めて車イス生活だった方は「リハビリ」「治ったら墓参り」と笑顔を見せ回復に向かわれました。思い出せば熊本地震から6年、たくさんの苦難を乗り越え、これからも上手に乗り越えてみせると言う意気込みに聞こえます。1日も早く川の流れのように穏やかな日常に戻ることを祈らずにはられません。

支援員 牛島真由美



3班「1歩ずつ」

今年度から新しく担当をさせて頂いているKさん。入職して間もない頃に、Kさんが食堂で配膳したばかりのお盆を引っくり返されたのを見て衝撃を受けたことを覚えています。それからの私は、Kさんと食事をする時には特に気を配り、座る位置や言葉かけなど、とにかくお盆を返さないうで食事をする為には、どのような支援が必要なのかを考えて支援することに心がけています。

Kさんは配膳の前に一緒に食べるスタッフを選び、手を繋ぎに来られます。2名のスタッフから選ばれるのですが、これまでも、担当になってからも私が選ばれることはほぼありませんでした。なぜ自分は選ばれないのか？現在も自分の中で答えは見つかっていません。

担当になりお盆を返さずに過ごしてもらうことは大切ですが、この人となら安心して食事場面と一緒に過ごすことができる。そんな存在になっていけたらと思います。自分の支援を見直しいつか私を選んでもらえる日がくることを願い日々の関わりを積み重ねています。

支援員 相馬 敦

4班「これからも一緒に」

出勤するといつも、笑顔で声を掛けて下さっていたFさん。ある日を境に、活気がない、足が上手く動かせないといった、いつもと違う様子が見られるようになりました。年齢のせいかとも思いましたが、病気が隠れていることが分かり、入院治療を行って頂くことになりました。そして、無事に退院を迎え、私がお迎えに行くと「あ～来なった、来なった！」と看護師さんに伝えて下さっている懐かしい声が聞こえてきました。そこには、笑顔の戻ったFさんの姿がありました。さらに、入院前は足元がおぼつかず、1人での歩行が困難な状況でしたが、退院する時には病室から駐車場まで1人でしっかり歩くことができました。帰りの車の中では、以前の様な活気のあるFさんとの会話に嬉しくなり、二人で喜び合いました。退院してからも、ドクターから継続して運動する宿題をもらっているFさん。「コンサートに行く」ことを目標に頑張られています。運動を毎日続けることは簡単なことではありません。良い応援団でいられるように、私も勉強し続けたいと思います。

支援員 船津朋世



5班「手形アート第2弾！」

5班では金曜日のクラブ活動で手形アートを作っています。第1弾は夏の木をモチーフにした作品でしたが、第2弾の今回は「春」にちなんで桜の木を作りました。今回も利用者の皆さんがそれぞれに手に絵の具を付けてペタペタと紙に押ししていきます。2回目という事もあってか前回よりスムーズにされ、皆さん笑顔でペタペタされていました。今回Sさんが代表で筆を使って「春」と漢字で書いてくれました。とても綺麗な字で書いてくれたのでかっこよく仕上がりました。非常勤スタッフを中心に沢山の作品が出来上がり、作業棟に彩を持たせてくれています。これからも沢山の作品が出来る予定なので紹介していきます。次の作品をお楽しみにして下さい。また、アートだけでなくいろんなことにチャレンジできたらと思います。

支援員 西本綾子

療育雑記

「自己肯定へ繋げる支援」

サービスマネジメント 今池一成
私たちが支援者の中に、その日の体調や心の状態、プライベートルな問題、楽しみにしていること、心配なことなど、様々な要因が影響しながらも、常に100%で仕事に臨むことができる方はどれ位いるでしょうか。

もしかしたら、様々な心揺さぶられる要因がありながらも、どこかで折り合いをつけて60%70%の仕事をして、何とかその日1日をやり過ぎた経験がある人も、少なくはないのではないのでしょうか。

①とても真面目なAさんは、心優しく帰宅時には両親の介護もされる。しかし、少しの失敗や気になる予定で不安定になり、「今日1日ダメでした」「僕の人生は終わりました」などと発言され、時に自暴自棄になり物を壊したり、暴れたりすることもある。

②失敗したくない気持ち強いBさんは、周囲とコミュニケーションを取ることが少し苦手で、

自身の評価をとてにも気にされる。周囲がほんの些細なことだと感じる出来事でも、「私が悪いんですよ」「今日は×でした」などと一言われ、今日1日全てを否定して、大声で叫んだり、泣き出したりすることがある。

③コツコツ努力を怠らないCさんは、相手のことを考え過ぎるが余り、自分の気持ちを押し込んでしまい、自身にネガティブな感情を抱きやすい。しかし実際は、日々努力されポジティブに行動できていることも多い。でも、頭をよぎるほんの少しのネガティブな感情に影響され、「全然できていない」「不安定です」と自己評価される。

「ストレングスマodel」という言葉は、みなさんご存知だと思いますが、自分の“弱み”や“課題”を見つけてることより、“強み”や“できていること”を見つけて表現していくことは、そう簡単ではないと思います。そして、支援者はその“強み”をどうやって利用者さんに伝え、生活の中で活かしていくかが問われます。

そこで重要となるのが、「リフレーミング」という考え方で、支援者である私たち自身の枠組み（視点）を変えることは勿論のこと、利用者さん自身の持つ視点も変えられる（自身の

強みに気付いてもらう）ような支援が求められます。

こうしたポイントがある一方で、支援者が良かれと思って（分かり易く）「○」や「×」で、利用者さんの行動を評価したり、伝えたりすることがあります。善悪が難しい場合には、判断する手立てになることもあるかもしれませんが、上記のように“上手く行動したいけど、ちょっと躓いてしまった”という方にとっては、「×」「全否定」に繋がる（そう思わせてしまう）恐れがあります。また、そもそも私たち支援者は、利用者さんの生活をジャッジする立場ではなく、一緒に歩みながら力を引き出す存在でなければならぬと思います。

「常に100%な日でもなくてもいいんですよ」「少しの失敗がありながら、今日1日良く頑張りましたね」そういったことを支援者としてどのように伝えていくかが、とても重要な関わりだと考えます。そして「白か黒」「○か×」といった視点だけでは、伝えきれない部分にこそ、この仕事の魅力が詰まっています。

「失敗して自分が思い描いた通りにはいかなかったけど、今日1日何とかなりました」

“そんな60%70%の日があってもいいんですよ”
そうやって自己否定ではなく、自己肯定を積んでいく。それが「その人なりの豊かな人生に繋がる」と信じて、これからはその一瞬一瞬の言葉選びを自身の支援の核としていきたいと思えます。



部長便り

「関白宣言」

部長 松本慎太郎

「♪あなたを施設に雇う前に言っておきたい事がある。かなりきびしい話もするが私の本音を聴いてください。非常勤より先にあがってはいけない。非常勤より後に出勤してもいけない。資料は上手く作れ。いつも整理整頓しろ。出来る範囲で構わないから。忘れてくれるな。挨拶も出来ない人に。福祉を語るはずなどないってこと。あなたにはあなたにしかできないこともあるから。いい施設にするために言えることは言っただけ歩いて行こう。あなたの親と利用者どちらも同じだ大切にしろ。利用者を第一に思え。たやすいはずだ愛すればいい。人の陰口言うな聞くな。それからつまらぬ批判はするな。私は虐待はしない絶対しないと思う。でもしているかもしれないと思って。日頃から気を付け合おう。施設はみんな綺麗にするもの

で。誰かが苦勞して掃除するものではないはず。利用者は施設で24時間生活しているのだから自分の家だったらと思っただけにしよう。・(略)・忘れてくれるな利用者から学び成長させてもらっているということをしてもらって一緒にいるのは。他者との関わり合いが不得意な心きれいな人ってことを♪



人権擁護委員会

人権擁護委員会

主任 本田 誠

利用者の人権が、より擁護・尊重されるよう積極的権利擁護の観点で取り組んでいます。昨年度は、人権に関するワードを取り上げ、三気の里での実践例、他施設での実践例を学習し、三

気の里で新たに実践できる取り組みを提案してきました。誰も利用者の人権を侵害しようと思わない人はいません。しかし、自分自身の余裕の無さや焦りが原因となり、結果として、丁寧な支援を提供できていない場面があります。この現状を真摯に受け止め、後半では支援者側が「自分を整える」というテーマの下、勤務前からの準備や切り替えのスキルについて学んできました。しかし、個人で解決できることには限界があり、やはりチームでの助け合いが、より良い支援に繋がることを実感しました。今年度もチームで学習、啓発を行い、三気の里全体の意識が向上するよう取り組んでいきます。

GHはじめ

「支援員の個性」

支援員 中里貴永

新年度になり1ヶ月ほどの時間が過ぎましたが、グループホームはじめは利用者さん、支援員共に昨年度からの人員変更はな

く、今年度も馴染みの仲間での生活を送っています。

今回は支援員について少し書かせて頂きたいと思えます。グループホーム利用者さんと直接関わらせて頂く支援員は、世話人、日中支援員、夜間支援員(夜勤者)に分けられ、さらにその中で常勤、非常勤の支援員がいます。常勤支援員は園内での研修や実務を経験しており、支援員として「療育」というものにこだわり過ぎてしまうことがあります。それに対して非常勤の支援員は「日常」を大事にしているように感じます。その為、会話や会議で正反対の意見が出ることもあります。これは悪いことではなく、互いの偏った考えを調整し、支援の幅を広げることに繋がっています。それぞれの考えを活かしつつ、これからも利用者さんの喜びや安心を、共に支えていきたいと思えます。



5月スケジュール

- 2(月) 保健師訪問
- 5(木) さんきマーケット あそび隊
- 7(土) 陣内食堂
- 14(土) イベント食 (LIEBE焼肉弁当)
- 18(水) 誕生会 嘱託医来診
- 21(土) わっふる

「熊本県・市連携発達障がいに関する講演会」

ON LINE

- 29(日) かくたつ研修 (~5/30)

毎週月曜日利用理容サービス
毎週木曜日ローソン移動販売
BE TREE
<営業時間>8:00~18:00



betree314

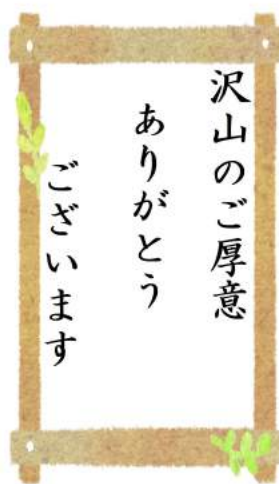
看護師便り

「新型コロナウイルスに
思うこと」

看護師 小崎栄之

日本で最初の新型コロナウイルス感染者が確認されて2年余りの月日が経ちます。今なお、世界中で蔓延しており、不安な日々を過ごされている方も多いと思われます。利用者の皆様も緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置による外出の制限、習慣の変化からストレスが増大していると思われます。三気の里では、今、利用者にも出来ること、すべきことを考えながら、感染防止を徹底しております。また、協力していただいている保護者の皆様、関係者の皆様には感謝を申し上げます。皆様には、「コロナ禍であっても、心身共に良い有酸素運動」「ウォーキング」「ジョギング」等を心がけ、健康管理を意識されてください。有酸素運動や太陽を浴びることにより、精神の安定、体力の強化、免疫力の増

強につながります。いつ新型コロナウイルスが収束するか分からず不安な日々が続きますが、健康づくりやストレスに対して考える良い機会です。
新型コロナウイルスに負けずに一緒に乗り越えていきましょう。



【寄付】
三気の里家族会 財津睦夫様

【物品】

- 小牧博則様 渡邊正司様
- 藤井法仁様 高村茂子様
- 柴田博子様 芹岡隆博様
- 櫻木房江様 岡本則子様
- 森川琇介様 赤星央子様
- 田中満子様 魚谷秀文様
- 金森保様 上田タキ子様
- 清田栄一様 松村俊介様
- 櫻木勇夫様 岩切美佐子様
- 宮本眞一様 井手上昌子様
- 東坂富士代様

【ボランティア】
森川琇介様 赤星央子様
岩切美佐子様

【後援会】

- 木本博明様 森聡章様
- 荻迫和也様 森川誠様
- 中原喜徳様 井上優様
- 荻原久雄様 松山健様
- 藤井法仁様 村上光様
- 植原郁子様 横手聡様
- 財津睦人様 渡邊正司様
- 工藤理恵様 米田孝一様
- 西村栄子様 國本寅雄様
- 竹下英毅様 清藤節子様
- 児玉静子様 魚谷康洋様
- 井本幸雄様 牧野慎也様
- 高森井栄様 後藤啓市様
- 荒川信子様 東矢真明様
- 田中慶秀様 森岡良子様
- 山口健二様 稲田裕美子様
- 園田真也様 清藤由美子様
- 吉田俊人様 井手上昌子様
- 井上ちえ子様 興呂木克昭様
- 小屋野ミチ子様 前田克英様
- 刃のフレッシュ今村義頼様
- （西）日本防災システム様
- 熊本県総合保健センター様